

【中河内地区】

夏期実技研修会実施報告

日時：2025年8月18日（月）9時30分～12時30分

会場：東大阪市立盾津中学校

内容：「新しい素材」の提案

身近な素材であるアルミホイルを立方体に固め、段階的に研磨し鏡面状態のアルミキューブを制作する。

ねらい：工芸・工芸授業のあり方を考える

講師：まちなかの美術室代表 沢井大羅先生

参加人数：13名

《準備物》アルミホイル（120cm）、金槌、金属用紙やすり（＃60、＃240、＃400）
耐水ペーパー（＃600、＃1200、＃1500）、ウエス、研磨剤（ピカール）
マスク、筆洗、新聞紙

《講習の流れ》

	制作項目	所要時間
1	丸める・金槌で叩く	30分
2	＃60ペーパーで研磨	40分
講師からの話		15分
3	＃240ペーパーで研磨	20分
4	＃400ペーパーで研磨	10分
5	＃600ペーパーで研磨	10分
6	＃1200ペーパーで研磨	10分
7	＃1500ペーパーで研磨	10分
8	研磨剤で仕上げ磨き	20分
意見交換・さいごに		15分

《制作工程》

① 丸める、金槌で叩く（30分）

- アルミホイルのキラキラの面が表になるように軽く丸めていき、手と机で目標 3 cm^3 のキューブ状になるよう成形する。
- 面が平らになるよう金槌で優しく叩いていく。大きな傷を残さないためにも金槌の角を当てないようにしながら、1辺が約 2 cm になるよう形を整えていく。



② 60番・240番・400番の紙やすりで研磨する（60分間）

- 最初は、アルミホイルが剥がれやすいので、優しく研磨する
- 途中から研磨をする面がやすりに完全に接地している感覚を持って、押し付ける力を強くしながら往復磨きを行う。
- 荒いやすりで取れないキズは、その後のやすりで取れない。
＝荒い番号を丁寧に行えば、後が楽になる。



講師からの話

工芸とは・・・

素材の特性を生かしながら、美しさと使いやすさがひとつになった「暮らしの中の芸術」という考えがあると思うのですが、今日工芸の授業では「教材キッド」が多用され、色や構図、アイデアやレイアウトの比重が高いように感じる。見た目は工芸的作品で、興味をもつには適しているが、工芸的プロセス（素材との対話）が多く含まれているわけではない。

今回のアルミホイルのキューブ制作では立体的な形を丁寧に作り上げていく中で、素材の扱い方や段階的な研磨による質感変化を理解し最終的に金属光沢のある立体作品を完成させることで、観察力・持続力・達成感を実感しながら、美的感性と造形力を高めることのできる制作としての提案。



③ 600番、1200番、1500番の耐水ペーパーで研磨する（30分間）

- 耐水ペーパーは水に濡らしながら、研磨する。
- 研磨粒度が変わるたびにキューブを洗い、筆洗の水も替える。



④ 研磨剤（ピカール）で仕上げ磨きをして完成（10分間）

- ウエスに研磨剤をつけて磨く。
- 研磨剤はたくさんつけると早く光るということはなく、少量で磨くようにする。
- 最終的にウエスで乾拭きをすることで、よく光るようになる。



最後に・・・

アルミキューブに用途はありません。しかし、金槌でたたき続けて硬くなる金属の性質や、研磨して生まれる光沢、手に持った時の重みや質感…そうした“美しい”ものを、自分の手で作り上げる経験は、工芸的プロセスの本質そのものです。世の中には、便利さや効率では測れない価値がたくさんあります。今日の経験が、その価値を伝えるきっかけになれば嬉しいです。

《研修会に参加された先生方の感想より》

- レジユメや先生の説明が分かりやすくとても勉強になりました。ありがとうございました。
- はじめはもう二度としない！と思っていたけど、やっていくうちに達成感を感じてまたやりたくなりました。ありがとうございました。
- 身近な材料を使った新たな授業のアイデアを教えてください、新たな可能性を感じました。最近勾玉など立体制作を授業に取り入れていなかったため素材をアルミに変えて再チャレンジしてみようと思いました。